

# 平成29年度第2回前橋市総合教育会議会議録

日 時 平成29年12月19日（火） 午後3時00分から午後4時10分まで

場 所 市役所11階南会議室

(市長)

山 本 龍

(教育委員)

教 育 長	塩 崎 政 江	教育長職務代理者	村 山 昌 暢
委 員	吉 川 真由美	委 員	湯 澤 晃
委 員	奈 良 知 彦		

(事務局)

教 育 次 長	橋 本 誠 次	指 導 担 当 次 長	林 恭 祐
総 務 課 長	小 島 順 子	教 育 施 設 課 長	大 舘 勉
文化財保護課長	田 中 隆 夫	学 校 教 育 課 長	川 上 辰 幸
生涯学習課社会教育係長	佐 藤 由美子	青 少 年 課 長	時 澤 秀 明
総合教育プラザ館長	高 木 威	図 書 館 長	栗 木 佳 香
前橋高等学校事務長	中 澤 修 司	児 童 文 化 セ ン タ ー 館 長	佐 藤 博 之
政 策 部 長	藤 井 由 行	政 策 推 進 課 長	膽 熊 桂 二

教育次長 これより平成29年度第2回前橋市総合教育会議を開会いたします。本日の進行は事務局で務めさせていただきます。それでは最初に山本市長からごあいさつをお願いいたします。

市長 早いもので地方教育行政法の改正後7回目の総合教育会議となりました。

私自身の感想では、各教育委員さん方と色々な協議を進めさせているなということを感じております。教育そのものはレイマンコントロールによってソフトは決められるべきであります。総合教育会議の議事の行く末を見守りながらそれを実現できるように取組を応援するのが市長としての役目でございますので、教育長ほか各教育委員さん方の思いが実現できますように応援させていただきたいと思っております。また、併せて教育長さんからはICTセミナーのご案内をいただきましたが、こうした形で全国的にも前橋市の取組が評価されているということを押見して大変心強く思っているところです。議事を見守りながら意見があるときは言わせていただくというスタンスで参加させていただきます。

教育次長 ありがとうございます。続きまして教育長からごあいさつをお願いいたします。

教育長 今年度2回目の総合教育会議ということで、市長に招集していただきました。私たち教育委員会関係者は、市長に教育についてご理解をいただき私たちに任せていただいているという点について大変ありがたく思い、また責任を感じております。

今日は新しい来年度からの第2期前橋市教育振興基本計画と重点事業について検討していただき、方向性を決めていただけたらと思っております。そして、これを教育の大綱としていきたいと考えておりますので、市長はじめ教育委員から意見をいただき、できるだけ良いものにしていきたいと思っております。

教育次長 ありがとうございます。それでは、協議事項に入らせていただきます。

### 議題1 平成30年度「教育の大綱」について

教育次長 議題1の「平成30年度『教育の大綱』について」です。

前橋市の教育大綱は、教育振興基本計画及び重点事業を合わせたものでございます。

本日は、お手元に「第2期前橋市教育振興基本計画（案）」、「平成30年度重点事業（案）」を配付させていただいております。

まず、①第2期教育振興基本計画案についてです。現在パブリックコメント中ですが、校長会や関係団体にも配付させていただき、意見をいただいているところでございます。まずは、指導担当次長から概要を説明いただき、その後意見交換に移らせていただきます。

指導担当次長

「はじめに」というところに「県都前橋教育のまちの実現」と書かせていただきましたが、これまでの様々な先輩方のご努力を継承しながら、さらにこれからの子供たちをどういうふうに育てるのかという課題を含め、平成30年度から34年度までの5年間の計画となっております。それでは概要についてです。

前橋の教育が目指す人間像を「多様な人と協働しながら主体的・創造的に社会を創る人」とさせていただきます。これは子供たちだけではなく、高齢者や成人も含めたものです。まずは一人一人が様々な力をつけ、それぞれのよさを伸ばし、自己肯定感を高め主体的に生きていくことが大切です。また、様々な人たちと関わる中で人間性や社会性を育て、そして、集団の中で活動することで個の育ちも伸び、自立心も育まれるものです。つまり、個の育ちと社会の中での育ちは相互に関わり合いながら高まっていくという考えから、本計画では、この人間像の実現に至る過程には、四つの場面、ステージがあると捉えて考えていくことといたしました。

この「4つのステージ」ですが、教育における人づくりにおいて最も重要な「個を伸ばす」というステージ、それから多様な人が共に学び合える「認め合う」というステージ、協働してよりよいものを「創り出す」というステージ、そしてふるさとを愛し未来へつなげる「未来へ」というステージの四つとさせていただきます。そしてこの「4つのステージ」という観点で各分野に横串を刺し、教育委員会全体で取り組もうというものです。

13ページになりますが、学校教育分野、青少年教育分野、社会教育分野、教育環境整備分野の四つの分野から目指す人間像に具体的に迫っていくという考え方になります。

次に20ページをご覧ください。この教育委員会の取組を教育行政方針で具体的に定めて実施していきませんが、学識経験者の意見をいただきながら点検評価を行い次年度に改善をし、よりよいものにしていくという考え方になります。

冒頭申し上げましたとおり、市民の皆様の誰もが前橋で学べてよかったと感じていただけるよう「県都前橋教育のまち」を目指すという基本的な計画となっています。

教育次長

それでは、ここから意見交換とさせていただきます。

教 育 長 前半の協議は第2期前橋市教育振興基本計画について感じたこと考えたことなどについてご意見をいただきたいと思っています。先ほど指導担当次長から説明のあったとおり、9ページ、11ページ辺りに全体像がありますので、まずはその辺から考えをお聞かせいただければありがたいと思います。

奈 良 委 員 まず個の育ちというのが非常に重要であると考えます。自己肯定感とか、自分に自信を持たせるということが他者に対する思いやりや気遣いが育っていき、それが集団に繋がりますし、それが集団の中で様々な経験、良いことばかりではないと思いますし、そういうことも受け入れてそれを乗り越えていく力を集団の中で体験することが重要ではないかと思って聞いていました。

図を見ても非常に見やすいですし、説明も分かりやすいですし、これを、学校を例とすれば、指導者が方向性をしっかり持っていることが大切です。一人一人の先生が役割を果たし、学校という集団の中で個が育っていけば良いと思います。子供たちだけではなく、先生方も育っていかなければならないし、保護者も一緒に皆で子供を育てていくことが重要だと感じました。是非、力を合わせて個を伸ばしていきたいと思いました。

教 育 長 9ページの下にありますとおり、自信を持つには個だけではなく、集団の中でのいるから自信を持てるということだと思っています。この考え方をこれからの事業を進めていくに当たり、教育行政方針にも繋げていかなければならないと思います。

学校教育の話が出ましたが、13ページ以降にあります。

吉 川 委 員 今回、教育振興基本計画の策定に当たり、第七次前橋市総合計画に基づくということが非常に画期的なことだったと思います。13ページ以降にありますとおり、「個を伸ばす」、「認め合う」、「創り出す」、「未来へ」という「4つのステージ」においてどんなことができるかということそれぞれの立場の方々に考えていただき、この計画を作る過程で、この分野は「創り出す」ということは関係ないのではとか、「未来へ」ということが思いつかないといった議論もありましたが、できあがってみるとそれぞれの分野が、第七次前橋市総合計画の方向性や指針を達成するためにどんなことができるのかと考える良いきっかけになったのではないかと思います。本計画策定に当たって色々な人の思いが反映できたと思います。

教 育 長 今まで事務局でも工夫をしてきたと思いますが、この「4つのステージ」ができた経緯について、例えば、義務教育について学校教育課では

どういうふうに話し合われたか説明していただけますか。

学校教育課長

義務教育については、学校教育充実指針を策定しておりますが、これが学校教育のあらゆるところを網羅しており、各学校ではこれを指針にしながら学校教育を進めていくようにしております。

その中で義務教育については、やはり自分で学んでいこうという姿勢を伸ばしたいということが一点目、お互い学び合う関係を作っていこう、高め合っていこうというのが二点目、それからある程度身に付けたことを学校教育あるいは学校・家庭・地域の中で自ら活用していく力を身に付けたいということが三点目、そしてさらに義務教育が終了した後にも通用する確かな力を身に付けたいということで「4つのステージ」を設定しております。

教 育 長

義務教育で言うと、教育振興基本計画があつて、次に具体的な充実指針に繋がり、学校に繋がるという流れだと思います。

村山委員さんは学校教育以外も含めていかがでしょうか。

村 山 委 員

教育は、人間が生まれてから死ぬまで変化を続けていくことですが、生きている集団にとって良い方向に変化していくように関わるのが教育だと思います。赤ちゃんが生まれてすぐにお母さんがまなざしを向ける、これは育児と呼びますが、最初の教育だと思います。それ以降の幼児教育にせよ、学校教育にせよ、大学以降の専門的な教育にせよ、その延長に過ぎないと思います。そういう中で、各世代がどうしたらその人が良い人になっていくかというのを色々と悩んで考えていくのだと思います。その意味で少し話が飛びますが、私の思いとしてはスマホも使える子供になって欲しいし、一方でミミズに触れる子供にもなって欲しいです。スマホを使って最新の情報を素早く取り入れる子供であると同時に、実際に生きている生身の生き物がどういうものか、これはスマホで調べてみるよりもミミズを自分の手で触ってみた方が余程良く分かると思います。そういう視点で教育をしているということがこの計画から読み取れると思いました。

そうやって前橋の教育の中で育てられた世代が育って、今度は教育を受ける側ではなく教育をする側、これは教員でなくとも自分が生きている社会の中で人生の先輩という立場になれば嫌でも影響を与える立場になる訳ですから、その立場になった時に今まで自分が受けた教育を元にして後から来る世代の人たちに関わることとなります。そういうことで前橋の社会ができていく訳ですから、本計画が市の総合計画とリンクしていくのは当然のことであるし、そうでないと困ると強く思います。

教 育 長

教育振興基本計画は教育委員会の最上位の計画となりますので、理念

を持っていないと次の計画がうまく行きませんし、村山委員のおっしゃったように一人一人がより良い人生を送れるような人を作っていかなければならないですし、もしかしたら17ページの生涯学習のところにあるように個の学びやその学習成果の活用を基に、主体的に関わって交流していくことを通して、本来自分が地域を作っていく人になって欲しいという願いがこの中に入っているということですよ。子供だけではなく市民全体がということです。湯澤委員はいかがでしょう。

湯澤委員

教育振興基本計画の考え方として、第七次前橋市総合計画の柱の中で「教育・人づくり」という項目と無関係に策定するわけにはいかないでしょうし、行政として一貫性が必要でしょうから共通認識で計画を作るということは素晴らしいと思います。

抽象的に書いても具体的に何をするのかということになるので、そこが重要になると思いますが、職員の方々が何をするのかということを考えるときに、ここに立ち返って事業を決めるという点でとても重要な計画になると思いますので、全職員には目を通していただいて、自分のやることがどこに位置付けられるのかということをチェックして、これに沿ってやっていただければ目的である人づくりに繋がると思いました。

教育長

大事なポイントをおっしゃっていただいたと思いますが、13ページにあるようにここでは少し抽象的なところもありますが、具体的な事業になったときに、もう一度ここに立ち戻って何を目指しているのかをやらなければ意味がないと思います。

事務局各課で話し合われて、それぞれこの「4つのステージ」を作ってきたと思いますので、その辺り児童文化センターではどうやったのでしょうか。

児童文化センター館長

児童文化センターは学校のように教育課程が無いので自由度が高く、交通教育のように決まったこともあります。それ以外は自分たちで企画していますので、その中で活動を「4つのステージ」という視点で見直していこうという話し合いをしました。

例えば、「個を伸ばす」となるとただ単純に子供たちが学んだり遊んだりしているのではなく、主体的に子供たちが自分から何かやるように仕掛けをしようということを考え出そうとしました。「認め合う」のところでは、児童文化センターにはたくさんのおもちゃがあるので、そこで子供たちは一人遊びをしているのですが、それを芝生広場という何もない遊び場に持って行って子供たちがお互いに関わり合いながら何か遊びができるような企画をしようという話し合いをしました。「創り出す」のところでは、廃材を使って「ピタゴラスイッチ」のような活動をしたら面白いのではないかという話し合いをしました。そして、「未来

へ」のところも同じように環境教育や公園が持っている機能を使いながらみんなでやっという話し合いました。

第七次前橋市総合計画の三つの行動指針である「認め合い、支え合う」、「つながり、創造する」、「未来への責任を持つ」に、教育委員会が「個を伸ばす」という概念を足した形で、非常に教育委員会らしい、児童文化センターなら児童文化センターらしい活動がこの計画を基にして考えられるという話し合いをしました。

教 育 長 第七次前橋市総合計画を基にしながら各課で考えて意味を確認しながらこの計画を作ってきたということがご理解いただけたと思います。現在、パブリックコメントを実施中ですので、この案で決定ということではなく、最終的には来年2月ごろに策定ができたと思います。

市 長 今の話は理念ですから、行政側として見えてくるのは事業として予算を付けるところですので、ここでは教育長や教育委員の思いなどが詰まって入れば良いと思います。

教 育 次 長 ありがとうございます。

指導担当次長 次に②平成30年度重点事業についてです。

今年度、重点事業は八つでした。平成30年度は二つ増えて10の重点事業とさせていただきました。簡単に説明をさせていただきますが、1番目が地域寺子屋事業の拡充です。今年度は昨年度から3会場増えて10会場で行われています。中学生の社会性や人間性を育てて、地域の方々や大学生、教員OBの方々からご指導をいただく中で自己肯定感・自己有用感を高めていくためこの事業を拡充していきます。

2番目が赤城山ろく里山学校の充実です。これも昨年度の4会場から3会場増やして現在7会場で行っております。言うまでもなく自然や土地の特性を生かした体験活動を通して子供たちがふるさとの良さに気付き、前橋に生まれて良かったという気持ちや異年齢交流を図りながら子供たちの心を育てていくということで里山学校の充実とさせていただきました。

3番と4番ですが、昨年度はこれらの非常勤職員の配置等をスクールサポート事業とまとめさせていただいておりましたが、改めてそれぞれにいたしました。まず、3番目の教員の多忙さ解消についてですが、第2期前橋市教育振興基本計画にも課題としておりますが、市教委としては、平成19年度から多忙さ解消のために色々な手立てを講じてきましたが、今年度も教科指導講師や校務補助員を増員し、現場からは大変有効であり、実質的に多忙さ解消に繋がり大変ありがたいという声をいただいています。今後ますます充実させたいということで重点事業に挙げ

ています。

次に4番目の青少年支援事業ですが、昨今の子供たちを取り巻く諸問題を考えると、学校を直接支援する青少年支援センターは他市に誇れるものであり、こちらも重点事項に挙げています。

続いて、5番目がICTの推進ということで、全国にも誇れる環境を整えています。引き続き学校現場が活用しながら子供たちに還元できるような応援をしていきます。

6番目が小学校英語の充実です。来年度から新しい学習指導要領になり、小学校においては2年間の移行期間が設けられています。本市では小学校外国語活動35時間、週1時間、5・6年生は70時間、週2時間を来年度から先行的に実施をさせていただくものです。これまで拠点校英語推進員、ALTを増員していただきましたが、担任の先生が外国語を教えられるようにしたいということが基本です。やはり子供たちの実態をよく知っている担任が主体的に英語を教えられるということが大切だろうと考えています。実際に城南小学校における指定研究で何が良かったかという、担任と子供の関係が非常に良くなったという報告があります。小学校で英語を教えるに当たって教員を支援していきたいというものです。

7番目が特別支援教育の充実です。昨年度と同様ですが、やはり特別支援教育というものは色々な場面で充実させていきたいという思いがあります。特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室において、特別支援教育を充実させていきます。さらにはほっとルームティーチャーという非常勤講師を配置し通常学級にしながら特別に支援が必要な子供を支援できる体制を整えています。

8番目の幼児教育と親支援ですが、小さい頃からの子供と親の関りが非常に重要であります。昨年度、幼児教育充実指針を策定いたしましたが、色々な場面で子育て中の多くの方々に浸透させていきたいと考えています。

9番目は公民館・コミュニティセンターの充実を挙げています。今年度はさらに実効性のある施設として展開をし、地域の力を少しでも大きく力強くまとまりのあるものにし、また自分事として地域をより良くしていく担い手を増やしていきたいという思いで重点事業に挙げています。

10番目ですが文化財の活用推進になります。臨江閣、阿久沢家住宅という前橋が誇る重要文化財を活用していこうという観点で、色々なところに周知しながら教育委員会としての活用の方向性を考えていこうというものです。以上です。

教育次長

それでは、意見交換に移らせていただきますので、よろしく申し上げます。



- 教 育 長 教育振興基本計画の下に教育行政方針があるのですが、その中からの重点ということになります。ここに挙げているものは、前橋の教育の特色だと思います。その前橋の特色を重点事業としてやっていきたいということが事務局としての思いでありますので、ご意見をいただければありがたいと思います。
- 湯 澤 委 員 10の重点が取り組むべき課題だということが理解でき、よく分かりました。先ほど市長から予算という話がありましたが、事業を実施するためには当然予算も必要ですのでそれぞれの事業について費用対効果はどうかということも気になります。ただ、教育委員としての立場で言えば、教育は費用対効果で計れない部分もかなりあると思いますし、人づくりをする以上は短期的に費用対効果を計れないと思います。前橋で育った人が前橋に残ってくれると前橋の経済に寄与してくれると思いますので、ここは短期的な視点のみではなく、それぞれの事業が将来に繋がるという視点が必要だと思います。地域寺子屋事業は先日も新聞に載っていましたので、マスコミからの評価も高い事業だと思います。居場所がない子供たちを地域でしっかり育てていくんだという姿勢がマスコミ等により宣伝されれば、前橋に住みたいという人も増えていくと思いますので、拡充すべきだと思います。
- 教 育 長 本計画の「4つのステージ」の「未来へ」のところまで繋げられるような考え方を持つことが大切であるという意味で聞いていました。全ての子供が育つようにという意味でもこの事業を考えていかなければならないと思いました。
- 湯 澤 委 員 先ほどの話とリンクするのですが、何となく計画全体を見るとゼネラリストを育てる事業としてはそれぞれ位置付けることはできると思うのですが、個性を伸ばすという意味でスペシャリストも育てていくということも大切であると思います。来年度の重点事業はこれでいいと思いますが、そういった観点も重点事業に入れていければと思います。あるテレビ番組の話なのですが、素人の方でも特定の分野に造詣が深い方々がいて、そういう方が前橋に集まってきたら面白いなと思います。もちろんゼネラリストというか各個人のレベルを一定まで引き上げるのは前提で、さらにその先の個性、スペシャリストの人間が集まるような方向性も検討していけたらありがたいと思います。
- 教 育 長 10番の文化財のように興味を持ってくれると良いですね。少し長いスパンで見るという姿勢も必要だと思います。
- 村 山 委 員 個人的には赤城山ろく里山学校と文化財の活用が気になるところで、

個人的に参加をしたという訳ではありませんが、どちらも自分は前橋に住んでいるけれど前橋を知らないと、そのきっかけを与えてくれたと思っています。

岩神の飛石などもそうですが、里山学校は実際に前橋に住んでいても赤城山ろくで農業体験をする子供も減っていると思いますので、実際にそういうところで自分の手や足を使って土に触れるという経験は大人になってからも必要だと思います。

すごくこれやって欲しいと思うのが3番と4番の事業です。多忙さの解消の推進のところで校務補助員の方が入って教員が子供と向き合う時間を確保できていると思いますし、青少年支援事業である青少年支援センターについては私が教育委員になった年から動きの良さに感心していて、病院に例えると救急部のようなもので、これが普段目立っては困るのかもしれませんが、いざというときに本当に良く機能していると実感させられています。いざというときに機能するシステムがあるからこそ、普段からの業務を安心してやっていられると思いますので是非充実させて欲しいと思います。

教 育 長

里山や文化財は、子供たちが体験しなければ分からない前橋の良さというものがたくさんあると思うので、市長が進めているスローシティというものと関わっていると思います。子供たちが農業体験などを通して前橋の良さに気付くきっかけになっていけたらと思います。校務補助員や青少年支援センターのように教員の多忙さ解消に繋がるのであればどういう効果があるのかということをはっきりと示していかなければいけないと思いました。

吉 川 委 員

教育というと学校教育がまず思い付くのですが、文化財の活用がこんなにできるんだと感じた1年でもありました。数年前に阿久沢家住宅を見学した際には、これは守っていかなければならないという実感はあったのですが、こんなに前橋の子供たちや地域の方々が使えるようになるというのはあの時は想像していませんでした。やはり、文化財は守るだけではなく、使ってこそ何か新しいものを作り出していけるのではないかと、それをサポートしていくのが教育委員会の役割なのかなと思いました。臨江閣も少し前までは背の高い松の木に囲まれていて、臨江閣ってどこにあるのという雰囲気でしたが、周りや建物を整備していただいて、竜王戦のような日本が注目するようなイベントを行えたというのは市民として嬉しく思っていますし、使っていかなければならないと思っています。

地域寺子屋事業ですが、ここまで広がるのは当初思っていませんでした。学習支援、貧困対策というところから始まった事業ですが、そこにエキスパートの方が入って学習だけでなく心までサポートしていて、

年々事業というのは色々と変化をしていくものだと思います。最初に種蒔きをすることで関わる人がどんどん増えていって、色々な教育に関わっていくのだと実感しました。教育委員会は色々なところで種蒔きができるの良いなと思いました。

奈良委員

地域寺子屋事業ですが、私も実際に何か所か見に行きました。段階的に会場を増やして力を入れていると思いますが、是非力を入れていただきたいと思います。このことによって救われている子がいるというのが実感です。色々な指導者の問題をクリアして全市をカバーしてもらいたいと願っています。

それから英語教育ですが、担任への支援を進めていくということですが、どのような力を担任に付けていっていただくのか、本市なりの英語教育をしっかりと行って欲しいと思います。他市では派手な取組もあろうかと思いますが、ここは確実に英語の力を付けるんだという姿勢で取り組んでいただきたいと思います。

教員の多忙さ解消のところ部活動のことになりますが、これをやりがいと思っている先生もたくさんいますし、負担だと思っている先生もいるし、それから保護者も部活動に対する考え方が多様ですので、これを取りまとめるというのはなかなか難しいだろうなと思います。校長先生が学校の要望や状況を把握した上で部活動指導員を活用していくことが良いと思いますので、各方面から意見を聞いて充実させていけたら良いと思います。これにより部活動指導を負担に感じている先生の負担軽減に繋がれば良いなと思います。この三点について是非取り組みを進めていただけたらと思いました。

教育長

色々のご意見をいただきましたが、誤解の無いようにお伝えしておきますと、小学校英語ですが、担任が英語が特に堪能でなくても大丈夫なのでそこを事務局から説明してください。

学校教育課長

現段階で、拠点校英語推進員を市内に10名配置をして全ての小学校をカバーできるようになっていますが、その先生が現場に行くと先生方の取組を上手に支援してくれて、他の学校ではこんな取り組みをしていますよというようなことを伝えて、各先生方の英語力アップというものももちろんありますが、それよりも指導上子供との関わり方に重点を置いていただいています。もちろんそうした中で先生方個人のレベルも上がるとは思いますが、関わり方に重点を置いています。また、総合教育プラザにおいては、先生方に自由に来てもらって、気軽に参加できる英語指導の講座もやっています。先生方も少しずつ自信が付いてきているというのも事実だと思います。

- 教 育 長 英語力をアップしてくれるのは、拠点校英語推進員でありALTですが、授業を構成していくのは担任の役割となりますので、教育委員会はできるだけ英語が得意でない担任を支援していきたいと思います。
- 部活についても考え方が一様でないため学校の実態によって異なると思いますので、その学校が困らないようにできるだけ支援をしていける体制を作っていきたいと思います。
- 10項目の重点を挙げさせていただきましたが、これで良いかどうかのお話もいただけたらと思いますがいかがでしょうか。
- 市 長 教育委員会で方向性を決めていただいて段々とディテールが決まっていくのでこれで良いと思います。守備位置がICT、英語教育と広がりがつつありますが、いつも基本となるものは何かというところに立ち返っていただけたらと思います。学校教育以外の話で、家庭教育に対する責任の再認識、役割分担、あるいは地域スポーツにおける役割分担、ザスパクサツ群馬の少年指導は今ままで良いのでしょうかということも含めて、地域や家庭がもう一歩進んでいただくという議論はこの外にあると思いますので、教育委員会が決めたこの方針で是非進めていただきたいと思います。なおかつ、学校クラークや部活動指導員については様々な財政負担が伴うでしょうが、教育のまち前橋という皆さんの思いのために自分の食う分は削って子供たちに回していくしかないと思っておりますので、進めていただきたいと思います。
- 教 育 長 ありがとうございます。市長の教育への温かい思いを聞いてありがたいなと思いました。本日出されたご意見を元に来年度進めていきたいと思っております。
- 教 育 次 長 ありがとうございます。
- 次回の予定につきましては、協議すべき議題が出ましたら、改めて総合教育会議を開催させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
- (異議なし)
- 教 育 次 長 具体的な日程については、改めて事務局からご連絡を申し上げます。
- 教 育 次 長 以上で本日の会議事項は全て終了いたしました。これにて閉会いたします。ありがとうございます。

(午後4時10分)